

18 . イエスがこれらのことを話しておられると、

見よ、ひとりの会堂管理者が来て、ひれ伏して言った。

「私の娘がいま死にました。

でも、おいでくださって、

娘の上に御手を置いてやってください。

そうすれば娘は生き返ります。 」

19 . イエスが立って彼について行かれると、弟子たちもついて行った。

20 . すると、見よ。

十二年の間長血をわずらっている女が、イエスのうしろに来て、その着物のふさにさわった。

21 . 「お着物にさわることでもできれば、きっと直る。」と心のうちで考えていたからである。

Ἐὰν μόνον ἄψωμαι τοῦ ἱματίου αὐτοῦ σωθήσομαι.

ただ、だけ、

22 . イエスは、振り向いて彼女を見て言われた。

「娘よ。

しっかりしなさい。

あなたの信仰があなたを直したのです。」

すると、女はその時から全く直った。

Θάρσει, θύνατεο.

勇気を出せ、元気を出せ、心配するな、勇敢であれ

ἡ πίστις σου σέσωκέν σε.

pf.

καὶ ἐσώθη ἡ γυνὴ ἀπὸ τῆς ὥρας ἐκείνης.

aor.pass.

23 . イエスはその管理者の家に来られて、笛吹く者たちや騒いでいる群衆を見て、

24 . 言われた。

「あちらに行きなさい。

その子は死んだのではない。

眠っているのです。」

すると、彼らはイエスをあざ笑った。

25 . イエスは群衆を外に出してから、うちにおはいいりになり、少女の手を取られた。

すると少女は起き上がった。

26 . このうわさはその地方全体に広まった。

説教

来週は聖霊降臨節（ペンテコステ）です。

聖霊降臨節は、イエスさまの復活後七週目の日曜日に、

イエスさまの弟子たちにイエスさまの聖霊が降って、キリストのからだなるキリスト教会がこの地上に誕生した日です。

そこで、教会とは何であるのか、今朝は福音書の中から共に学びたいと思います。

今日の話はカペナウムでのことです。

イエスさまがマタイの家で開かれた、

盛大な宴会で新しい革袋のたとえを話しておられる時、

ひとりの会堂管理者が来て、イエスさまにひれ伏して懇願します。

18．イエスがこれらのことを話しておられると、

見よ、ひとりの会堂管理者が来て、ひれ伏して言った。

「私の娘がいま死にました。

でも、おいでくださって、

娘の上に御手を置いてやってください。

そうすれば娘は生き返ります。」

「私の娘が今死にました。」

何と、おめでたい宴たけなわの席に、葬式の話が飛び込んできたのです。

「私の娘が、今、死にました。」

他の福音書では「私の幼い娘」（マルコ 5:23）「ひとり娘」（ルカ 8:42）とあり、

会堂管理者が、かけがえのない自分の娘をどんなにかわいく思っていたのかが何かしみじみと伝わってくるようです。

他の福音書ではこの少女は「12歳」であったとあります。

当時は12歳で成人しました。

会堂管理者は、自分の娘を手塩にかけて大事に育ててきて、

ようやく成人の日を迎えて一人前になったというのに、それなのにその「娘が今死んだ」のです。

これ以上に悲惨な話があるでしょうか。

どんなに強い人でも、「死」という現実はどうしようもありません。

「瀕死」ならまだ助かる望みもあります。

でも、死んでしまえばどうしようもありません。

死んだら終わりです。

やり直しがききません。

会社が倒産した、

リストラにあった、

家庭が崩壊した、

健康が損なわれた、

成績が落ちた、

それならまだ人生やり直しがききます。

どんなに悲惨な目に遭っても、とにかく生きていれば、まだやり直しがききます。

でも、死んでしまえば、どうしようもありません。

死んだら、もうやり直しできません。

死んだら終わりです。

誰も勝てない、

　　どうすることもできない、

どうしようもない現実、

それが「死」という現実でありました。

イエスさまは、その「死」の現実に向かい出ようとして行かれます。

19．イエスが立って彼について行かれると、弟子たちもついて行った。

すると、また別の悲惨な現実の中にある女性がイエスさまに助けを求めます。

20．すると、見よ。

十二年の間長血をわずらっている女が、イエスのうしろに来て、その着物のふさにさわった。

「12年間長血を患っている女が、イエスの後ろに来て、その着物にさわった」のでした(20)。

これは出血を伴う婦人病あるいは性感染症の女性ということになりますが、

レビ記 15 章によると、いのちの源と言うべき血を流している間は「汚れている」状態にあるとされました。

「汚れている」とは、神さまに見捨てられた、そのままでは死に至る、呪われた状態ということです。

そして、彼女の触れるものすべて汚れるので、誰も彼女に近づくことができません。

そして、当然のこと、「あいつは『長血の女』だ、『血を流している女』だ」と後ろ指を指されます。

みんな逃げて行きます。

重い皮膚病患者（ツアラアト患者）のように

「私は汚れています、汚れています」と言いながら道を通ることはできませんが、

それでも、周りから白い目で見られ、後ろ指を指されながら、生活しなければならなかったことでしょう。

つまり、まともな社会生活ができないのです。

社会的には死んだも同然な存在です。

生きてはいても、死んだも同然な、生ける屍のような存在でした。

そういう死んだも同然の人生をこの女性は 12 年間も続けてきました。

しかもその治療のために全財産を使い果たしてしまったと他の福音書では証言されています。

つまり、この女性は、

肉体的にも、経済的にも、社会的にも、そして霊的にも、事実上死んだ状態にあったということになります。

それで、この女性は自分が目立たぬよう、

何か後ろめたそうに、イエスさまの「後ろに来て」着物のふさに触らざるを得なかったのです。

しかし、このような最も悲惨な状況にあるこの女性には、一つの明確な強い確信がありました。

それは「お着物に触ることでできれば、きっと直る」という確信です。

21．「お着物にさわることでもできれば、きっと直る。」と心のうちで考えていたからである。

「直る」と訳されている言葉の直訳は「救われる」です。

どの程度まで考えて、自分が「救われる」と思ったのかわかりませんが、

いずれにせよ、この女性としては、自分の今のあらゆる意味で悲惨な状況から救い出されるという意味なのでしょう。

もうちょっと詳しく解説するならば、
汚れから救われ、
呪われた死の状態から救われ、
肉体的にも経済的にも死んだ状態から救われる、という意味でしょう。

そして、この女性には、イエスさまがこの私を救ってくださるという明確な確信がありました。
絶望の淵にありましたが、イエスさまが自分を救ってくださるという確信だけはあったのです。

21 . 「お着物にさわることでもできれば、きっと直る。」と心のうちで考えていたからである。
ただ、それだけで、他に何もしなくても、着物にさわるだけでもきっと直る、
なぜなら、イエスさまはそのようなお方だからだ、これがこの女性の確信でした。

そして、そのイエスさまを信じる信仰の通りにこの女性は癒されます。
イエスさまは言われます。

22 . イエスは、振り向いて彼女を見て言われた。

「娘よ。

しっかりしなさい。

：別訳は「勇気を出せ、元気を出せ、心配するな、勇敢であれ」

あなたの信仰があなたを直したのです。」

すると、女はその時から全く直った。

「『娘よ。

元気を出しなさい。

あなたの信仰があなたを救ったのです。』

すると、その女はまさにその瞬間から救われた。」(22 節直訳)

これでイエスさまの仕事がすべて片付いたわけではありません。

それからイエスさまは会堂管理者の家にお着きになります。

すると、そこには、

今で言う葬儀屋のような商売人の「笛吹く者たちや騒いでいる群衆」が

わんわんと泣き叫びながら深い悲しみを演出して葬儀の雰囲気盛り上げておりました。

**23 . イエスはその管理者の家に来られて、
笛吹く者たちや騒いでいる群衆を見て、**

それで、邪魔な彼らにイエスさまは言われます。

24 . 言われた。

「あちらに行きなさい。

その子は死んだのではない。

眠っているのです。」

すると、彼ら（それを聞いた商売人ども）はイエスをあざ笑った。

しかし、イエスさまは少女の手を取って生き返らせたのです。

**25 . イエスは群衆を外に出してから、うちにおはいりになり、少女の手を取られた。
すると少女は起き上がった。**

26 . このうわさはその地方全体に広まった。

これら二つの話から理解できることは、
イエスさまがいのちに満ちたお方であるということです。
それで、
見かけは生きているが実質は死んでいる人も、
本当にすべてが死んでいる人も、
イエスさまに触れて、あるいは触れられて、いのちを回復しました。
霊的にも、社会的にも、そして肉体的にも死んでいた者が、息を吹き返したのです。

この時、カペナウムのマタイの家で説教なさっていたように、イエスさまこそは新しい葡萄酒です。
死という古い革袋を打ち破るほど、ブクブクと勢いよく発酵し続けています。
いのちに充ち満ちているのです。
というより、イエスさまは、実はいのちそのものであられました。
イエスさまは後に言われます。
「わたしは道であり、真理であり、いのちなのです。」(ヨハネ 14:6)
「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。」(ヨハネ 11:25)
そして、使徒ヨハネはイエスさまについて証言します。
「この方にいのちがあった。
このいのちは人の光であった。」(ヨハネ 1:4)

イエスさまは天地の造られる前から生きておられました。
天地万物を創造し、
生きとし生ける全てのものにいのちを与え、
人の罪を赦して永遠のいのちを与える、究極の権威を持っておられます。
そして、自ら十字架で死なれた後に復活して死に打ち勝ち、今もそして永遠に生きておられます。

この広い世界、広い宇宙の中で、
イエスさまこそはいのちあるお方であり、いのちそのものであられます。

それで、このイエスさまに触れた女は救われました。
あらゆる意味で死んでいたのに、いのちを回復したのです。
彼女はイエスさまに触れて、生きた者となりました。
イエスさまからいのちをいただいたのです。

そして、死んでいた会堂管理者の娘のことを、
イエスさまは「その子は死んだのではない。眠っている」と言われます。
実際には、しかし、死んでいたのに、
心臓も動かず呼吸もしないのに、
いくら呼んでも返事をしないで冷たく横たわっているのに、
つまり、誰が見ても完全に死に絶えているというのに、
それでもイエスさまは「その子は死んだのではない。眠っている」と言われたのです。

どうしてでしょうか。

それは、イエスさまが見ておられるからです。

イエスさまが見つめておられます。

その子は、いのちそのものであられるイエスさまの目の前にいるからです。

私たちは、（瞳孔が開いている、心臓が動かない、呼吸していないという）肉体的な死が「死」だと考えます。

でも、イエスさまの目には、それは本当の死ではありません。

事実、聖書によれば、実は私たちの死は実は死ではなく眠りだと言われます。

終わりの日までの「眠り」

「地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者が目をさます。

ある者は永遠のいのちに、ある者はそしりと永遠の忌みに。」 ダニエル 12:2

だから、イエスさまの目には、本当の死とは、神に見捨てられて永遠の地獄で滅びることが「死」なのです。

つまり、

私たちの見た目にどうかでなく、

人の目にどうかということでもなく、

イエスさまの目にどうかということが決定的に重要です。

イエスさまが最終的なそして究極の基準です。

そして、イエスさまから見捨てられたら私たちは永遠の滅びに投げ入れられます。

しかし、イエスさまが顧みてくださっているなら、私たちはたとえ死んでいても生きたものです。

イエスさまと共にあるか否かが生死の分かれ目なのです。

私たちはどうでしょうか。

みなさん、それぞれが

仕事で苦勞したり、

家庭で苦勞したり、

病気になったりと、

人生の重荷を背負い、

大変な苦難の中にあり、

あるいは今もう既に死にそうな状況にあるかも知れません。

でも、どんなに死にそうな状況に置かれているとしても、

否、ほとんどもう死んでいる状態にあるとしても、

イエスさまの前にあるならば、

そして、イエスさまが私たちを顧みてくださっているならば、死んではいません。

まだ終わってはいません。

望みがあります。

「その子は死んだのではない。眠っているのです。」とイエスさまは言われるのです。
まだ生きています。

そして、たとえ死んでも、イエスさまが生き返らせてくださいます。

「私の娘がいま死にました。

でも、おいでくださって、

娘の上に御手を置いてやってください。

そうすれば娘は生き返ります。」

この会堂管理者の信仰の通りに、イエスさまが生かしてくださいます。

「お着物にさわることでもできれば、きっと救われる。」

長血を患っている女の信仰の通りに、イエスさまが生かしてくださいます。

どんなに悲惨な現実の中にあっても、

社会的、霊的に死んだ状態にあっても、イエスさまが生かしてくださいます。

滅びから救ってくださるのです。

死人を生き返らせる、これがイエスさまです。

望みない死人を生き返らせる、それがイエスさまのみわざです。

どうにもならない死人を生き返らせる、それがイエスさまの力あるみわざです。

そして、教会はキリストのからだです。

教会の使命は、死人をよみがえらせるイエスさまのみわざを証しすることです。

それは瀕死の状態にある人ではない、

何か回復の望みのある人でもない、

全く絶望的な人、

希望のない人、

回復の希望のない、「死んだ人」を回復させるみわざです。

死人をよみがえらせるわざです。

罪に死んだ者に生きるいのちを与える、キリストの力あるみわざです。

マタイ9章の主イエスさまのみわざは、今はキリストのからだなる教会がなし続けていることです。

そして、私たちも、そのような者として救われました。

罪に死んでいた者がキリストのいのちを与えられたのです。

死人をよみがえらせるキリストを信じ、

死人をよみがえらせるキリストを証しして、

キリストの栄光をあらわして生きていきましょう。